

目的 食生活の近代化と共に伝統的の木製食器の多くは台所から消え去ったが、吸物椀や汁椀はこれらの中でも広く使用し続けられている。演者等はこのような木椀に関心をもち、検討を重ねている。今回は盛付量、横ゆれに対するこぼれ易さ、傾けによるこぼれ易さ等、容器としての性質と、椀の内形との関係を中心に調査をおこなったので報告する。

方法 試料の木椀は前報と同様に、本学生活科学資料室の收藏品55点を用いた。各々の試料木椀について、以下のような計測をおこなった。一部について相関分析をおこなった。

①椀の上縁面より1cm下、1.5cm下、2cm下まで水を満たし、その容積をそれぞれ測定して盛付け容量を想定した。②横ゆれに対するこぼれ易さを調べるため、あらかじめ50mlの水を入れた木椀をレシプロ型振盪機(振巾3.4cm, 144 R.P.M.)に固定し、一定回数振盪後、こぼれずに残った椀内の液量を測定した。③椀の中身を飲み干すための椀縁に口を添えて椀を傾ける。この傾けの度合は椀によって異なる。この傾斜の度合を、あらかじめ0.5gの水銀を入れておいた椀を傾け、水銀がこぼれ落ちる時に椀上縁面と水平面とが成す角度を示した。④椀の各部位の計測値及び断面のスケッチは、前報のものを用いた。

結果 ①盛付量の平均値は、1cm下までの場合142ml(61%)、1.5cm下まででは85ml(41%)、2cm下では62ml(26%)であった。()内は椀の全容積に対する比率を示す) ②盛付量は、木椀の深さ及び椀の全容積と高い相関関係を示した。③横ゆれに対するこぼれ易さ、傾けによるこぼれ易さについても各計測値との相関関係を明らかにした。④更にこれらの結果と断面の形状との関係を考察した。